

第9回新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会概要

開催日時：令和元年8月8日（木）13時30分～15時30分

開催場所：新居浜市役所2階 21会議室

出席者：委員10人

傍聴者：なし

【教育長挨拶】

4月から教育長に就任しました。よろしくお願い申し上げます。

新居浜市の将来人口が現在の4分の3まで減少することが予想される中で、少子化に伴い学校が新たに抱える問題もある。思い切った学校の将来図を、新居浜市のあるべき姿をご議論いただきたい。

1 委員長選出

新居浜市立北中学校 校長 小笠原忠彦委員が委員長就任

2 新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会について

【検討委員会の位置づけ】

- ・全国的に少子化が進む中、10年後、20年後の市内の小中学校のあるべき姿について、「新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会設置要綱 第2条」に基づき、新居浜市教育委員会からの諮問に応じ、調査及び検討を行い、その結果を答申するものである。

【諮問事項】

- (1) 学校の規模配置等に関する基本的な考え方
- (2) 学校の適正規模及び適正配置のための具体的方策
- (3) 学校の組織、運営等に関する基本的考え方
- (4) その他学校の在り方について必要と認める事項

3 審議事項

【通学時間・通学距離について】

- ・スクールバスといった方策も取り入れ、統廃合を視野に入れて検討してもいいのではないかなと思う。
- ・私の地域では統合となると登下校はスクールバスになると思う。スクールバスは一斉下校となると子ども達が束縛され、他の児童とのギャップが生じるのではないかと心配されている。しかし、交通安全や交通事情からも、スクールバスが一番いいとは思う。
- ・スクールバスでの下校は、早く帰る便、2便、3便と出すことができるので、後から方法を考えることはできる。
- ・交通手段によってもメリット・デメリットがあると思うが、例えばバスの中で読み聞かせや、体力が落ちることを懸念し、手前からバスから降ろし歩かせるという工夫をしている例もあるようである。そこら辺も検討できたらと思う。
- ・通学距離、通学時間について今ここで深く追求する必要性を感じない。
- ・上意見に同感。今、本当に真摯に議論しなければならないのは、もっと先に進んだ統廃合に向けた議論であり、統廃合した時に、通学距離・通学時間をどうクリアするかという議論をするべきだと思う。新居浜の現状を話し合うことに時間を多くとる方がよいと思う。
- ・川東中学校は、生徒の自転車での下校時の事故もあった。通学路の問題も含めて検討していないといけないと思う。
- ・距離・交通・施設の方針を個別に決めるのではなく、統廃合をどのように整理していくか、そこがまずスタートではないか。まず最初に軸となる部分を決め、新居浜市として一連の流れで全体を通して諮っていく必要があるのではないかな。

【学校の適正規模・適正配置のための具体的方策について】

- ・PTAで議題にさせていただいて、大きな話題にさせていただき、真剣に論議の中に入ってもらいたい。
- ・単独ではなくPTA全体で危機感をもって本気になって考えてもらいたい。
- ・学校運営協議会やコミュニティ・スクールが始まったが、学校運営協議会の方でそういう話が出るのではないかなと思う。
- ・10年後、20年後を見越した議論をするためには、検討の仕方はいろいろあると思うが、

例えば、一つ一つの学校で今後児童数がどう予測されるか、単独校でやっていくのか、統廃合の検討対象とするのか、すみ分けをするのも一つの方法かと思う。

- ・学校現場の現在の教職員の体制にも問題がある。教員の定数の問題も大事だ。
- ・公共施設再編計画の資料を添付していただいているが、どういう見方をすべきなのか。

→【事務局説明】

本市が保有する公共施設の多くは、同じ時期にたくさん集中的に整備されており、今後、多額の更新費用が必要となり、人口減少や少子高齢化の進行により財政状況も今後益々厳しくなると予想されている。そのような中、本市の身の丈にあった施設保有量を実現するため、施設の適正な規模や在り方の方向性を検討する中で、将来的には例えば老朽化した小学校や中学校と保育園や公民館等を一つにまとめていく等公共施設の複合化も一つの視野にいれて再編の考え方をまとめることを目的に作成された計画である。

【事務局補足】

先日、愛知県の大府市に行かせていただいた。大府市は人口が約9万3千人で、言えば、新居浜市の20年後の人口の規模と同じである。大府市は、中学校が4校・小学校が9校程度であった。人口は新居浜市の4分の3程度の規模であるが、学校は新居浜市の約半分で行っている現状である。

中学校では、生徒の数が減ると、勢いで教員の数も減る中で、現在、本市の学校現場では、教科の指導や部活動の指導で実はもう支障を来たしている。これから更に先細りになっていく中で、今までの状況で20年後を迎え、新居浜市の教育が本当に充実したものになるだろうかというのでご議論いただきたいと思っている。

【委員長補足】

北中学校の現状として、全教科専門の教員がいない。免許外申請という形で専門を持たない教員がその教科を担当している。ある一定の学級数があれば、全教科の教員を揃えることができる。現在は、実際に、適正な人事配置がされているとは言い難い。

部活動においても、保護者のニーズ等もあり、かつての部活動の数を置いていると、各部で部員数が足りない。野球部に関しては、8月の市内の野球大会でも、かつては10校10チームでしのぎを削っていたが、現在は6チーム・内2チームが合同チームとなっている現状である。これが野球部だけに限らず、いろいろな部で合同チームが作られているところであり、活気がなくなっているのも事実だ。

【事務局補足】

統廃合は本当に直面している課題である。

- ・距離・交通・施設の方針を個別に決めるのではなく、統廃合をどのように整理していくか、そこがまずスタートではないか。まず最初に軸となる部分を決め、新居浜市として一連の流れで全体を通して諮っていく必要があるのではないか。
- ・高校でも統廃合が問題となっている。愛媛県はまだ進んでいない。学校がなくなるのは地域の人にとって非常な問題であるが、必要なことだと思う。また、小学校と中学校を一つにすることで、地域に学校を残すという選択肢も考えられる。

【委員長まとめ】

- ・検討事項になっていた通学距離・通学時間に関しては、先ほどご意見をいただいた中で、後回しとし、まず、全体像を作った中での細かい議論ができるよう、次回に全体像を示していきたい。

【アドバイザー】

むずかしい問題だ。ただ気になっているのは、公民館の設置地区と自治会、学校との関係がどうなっているのか整理してかかる必要がある。地理的な距離と精神的な距離とはちょっと違う。地域にとっての学校というのがある。その関係を整理していないと全体が崩れてしまう。

スクールバス問題は、子どもにとって地域が消える。学校の行き帰りに地域の方々との触れ合いが子ども達にとってもものすごい財産になる。スクールバスでの単なる通学になると、地域の意味がなくなってしまう。今後、学校教育では個別化が相当進んでいく。それと並行して共同化も進む。規範意識やコミュニケーション能力は物凄く大事である。それを補うのは、コミュニティ・スクールの役割である。

どういう風に地域を残しながら学校を置いていくかという発想を持たないといけないと思う。